

河内麦づくり情報～赤かび防除編～

平成31(2019)4月 河内農業振興事務所

1 気象概況(宇都宮気象台より)

気温: 生育期間を通じて気温が高く推移している。10月下旬～12月上旬、また、1月中旬以降も平年と比べて高く推移している。

降水量: 播種以降、降水量は3月下旬まで平年比52%と少なかった。12月下旬から2月上旬まで降雨が少なく、乾燥状態が続いた。

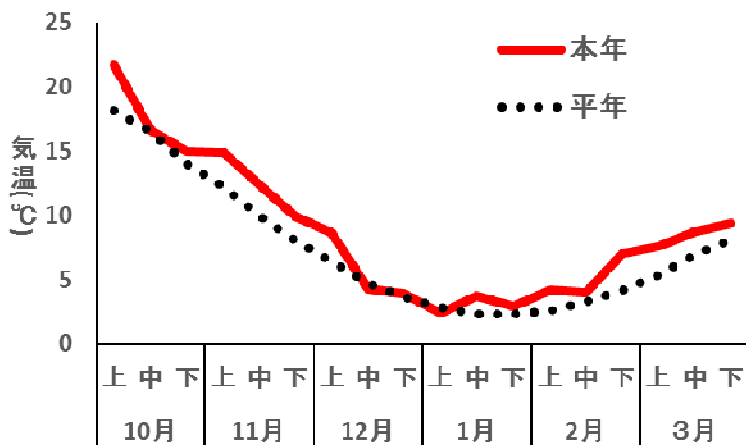


図1 旬別平均気温(°C)

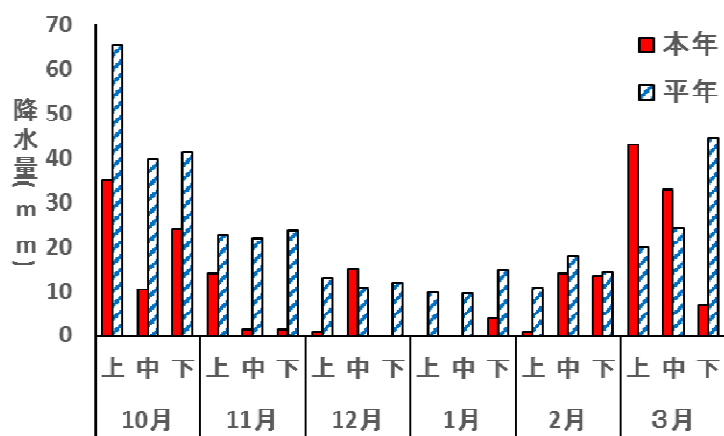


図2 旬別降水量(mm)

2 生育概況

10月中旬以降の天候が比較的安定したこともあり、播種作業は平年並に進んだ。苗立数は平年並で、初期生育は良好であった。

冬期の乾燥により、生育は一時抑制されていたが、1月中旬以降、気温が高く、また2月中旬以降、降水量が多く推移したこともあり、生育は進んでいる。なお、茎立期以降、氷点下の日が数日あり、一部で低温の影響が見られる。

3 気象庁1か月予報(4月4日(木)発表)

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

【気温】 関東甲信地方

40	40	20
----	----	----

【降水量】 関東甲信地方

40	40	20
----	----	----

【日照時間】 関東甲信地方

20	40	40
----	----	----

凡例:

低い(少ない)	平年並	高い(多い)
---------	-----	--------

3 出穂期予測

表1 農業試験場 麦類研究室 出穂期予測(ニューサチホゴールド) (4月4日現在の予測)

播種日: 11月5日(平年11月4日)

場所	茎立期		出穂期予測				出穂期	
	本年	平年	平年並	平年-1°C	平年+1°C	平年+2°C	平年値	前年値
農試本場	3月6日	3月20日	4月14日	4月15日	4月13日	4月12日	4月21日	4月23日

4 赤かび防除(大麦・大麦)

本病発生の最大の要因は開花期から乳熟期に雨が多いためである。また、気温が20～27℃のときに特に感染しやすいため、比較的暖かい年に多発する。

大麦：**穂揃い期7日～10後(葯殻抽出期)**(穂揃い期は全茎の80～90%が出穂した日)

小麦：**開花始と開花20日後の2回**

なお、不稔粒発生・登熟期連続降雨等、多発のおそれがある場合は、最終散布日から7～10日後を目安に大麦では2回目を、小麦では3回目の薬剤散布を行う。

表2 主な薬剤(平成31(2019)年4月4日現在)

FRACコード	農薬名(成分名)	麦種	使用方法	希釈倍数 使用用量	使用時期/ 本剤の使用回数
3	シルバキュアフロアブル (テブコナゾール)	大麦	散布	2000倍 60～150 L/10a	収穫14日前まで/2回以内
			無人ヘリ	16倍 0.8 L/10a	
		小麦	散布	2000倍 60～150 L/10a	収穫7日前まで/2回以内
			無人ヘリ	16倍 0.8 L/10a	
	ワークアップフロアブル (メトコナゾール)	大麦	散布	2000倍 60～150 L/10a	収穫7日前まで/3回以内
			無人ヘリ	10～16倍 0.8 L/10a	
		麦類 (大麦を除く)	散布	2000倍 60～150 L/10a	
			無人ヘリ	10～16倍 0.8 L/10a	
チルト乳剤25 (プロピコナゾール)	大麦	散布	1000～2000倍 60～150 L/10a	収穫21日前まで/1回	
		無人ヘリ	8倍 800 ml / 10a		
	小麦	散布	1000～2000倍 60～150 L/10a	収穫3日前まで/3回以内	
		無人ヘリ	8倍 800 ml / 10a		
1	トップジンM水和剤 (チオファネートメチル)	大麦	散布	1000～1500倍 60～150 L/10a	収穫30日前まで/3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦	散布	1000～1500倍 60～150 L/10a	収穫14日前まで/3回以内(出穂期以降は2回以内)
	麦類 (小麦を除く)	散布	1500倍 60～150 L/10a	収穫14日前まで/3回以内(出穂期以降は1回以内)	
		無人航空機	8倍 0.8 L/10a	収穫21日前まで/3回以内(出穂期以降は1回以内)	
	小麦	散布	1000～1500倍 60～150 L/10a	収穫14日前まで/3回以内(出穂期以降は2回以内)	
		無人航空機	8倍 0.8 L/10a		
11	ストロビーフロアブル (クレソキシムメチル)	麦類 (小麦を除く)	散布	2000～3000倍 60～150 L/10a	収穫14日前まで/3回以内
		小麦			

○FRACコードの異なる農薬をローテーションで使用してください。

○農薬は使用前に必ずラベルをよく読み、使用時期・使用方法を確認して正しく使用してください。

○散布する際は、農薬の飛散に充分注意してください。

5 今後の管理

排水対策：今後の降雨に備えて、早期に明きよの整備を行う。

- ① 降雨に備えて、明きよの出口が、ほ場外の排水路に接続されている。
- ② 溝が土や泥等で埋まっていない(埋まっていたらさらう)。

* 出穂期以降の湿害は、枯熟れ等で収量や整粒歩合の低下、細麦など粒の充実を著しく阻害するため、適切な排水対策を行う。



写真1【大麦】穂揃い期7～10日後(葯殻抽出期)
* 矢印の黒色部分が抽出した葯殻



写真2【小麦】開花始



4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

家族や仲間から、作業員へ「声かけ」(注意喚起)をしましょう。